

ナメが続く。右岸に支流を分けた所にかかる五〇分トイ状滝を越える
と、水量は極端に減り、一部は伏流
となっている。

一〇時四五分、沢に別れを告げ、

枯松沢右俣

L
一九八四年七月二日

烏川林道より枯松沢の出合までは
オートバイを使用する。林道のゲー
トがしまっても、車と違って、通り
抜けが可能だからである。出合まで
約二〇分。

フェルトシューズを履き、さっそ
く遡行を開始する。割と広い沢幅で、
ナメもあり、快調な出だし。

一〇分程歩くとF1五分の滝にぶ
つかる。ナメ状で、ヌルゴケが付い

稜線をめざす。(記)

「タイム」 滑谷奥沢出合(八:〇〇)

↓大谷地沢出合(九:三五) ↓終

了(一〇:四五)

ているので、フリクションがきかな
い。木の枝に助けてもらう。このあ
とF2まではあまり変化のない河原
歩きとなる。

F2から中枯松沢出合まで、小滝
がポツポツと出始まる。どうやらこ
の沢は当りか?と思わず顔がニンマ
リ。

中枯松沢出合からは、小滝とナメ
が連続して出てくる。この辺は、ヌ

ルがついていて、ワラジを履いてい
る和泉さんもかなり苦労している様
子。フェルトの僕は、もっと苦労し
てしまう。

九時二五分、この沢を二つに分け
る分岐に着く。ここで右俣と左俣の
様子をうかがう。右俣に比べ左俣の
水量が少ない。それに加えて右俣に
はいきなり滝が出ているので、下降
のことを考え、右俣を遡行し左俣を
下降とする。

右俣を遡るとすぐに四分、五分、
四分と滝が続く。いずれも直登。こ
の辺から沢が急になってきて、沢幅
もぐっと狭くなる。後はもう五分級
の滝と小滝の応酬である。

F9の八分を最後に滝は姿を消し
てしまうが、依然として沢は急であ
る。一〇時二〇分、とうとう水は涸
れてしまう。ヤブをこいで一〇時二

